



# NewsLetter

自治医科大学 地域医療オープン・ラボ

2025  
APR  
特別号

## 日本人脳出血患者の発症前未治療高血圧と血圧コントロール状況

自治医科大学 脳神経内科 大学院生 小澤忠嗣、同附属病院脳卒中センター田中亮太教授、同脳神経外科川合謙介教授、同脳神経内科藤本茂教授、同循環器内科苅尾七臣教授らは栃木県内の急性期医療機関と共同で日本人特発性脳出血の発症前高血圧治療状況について前向きに調査を行い、解析結果が Hypertension Research 誌に掲載されました。

論文名: Untreated and uncontrolled hypertension in Japanese patients with spontaneous intracerebral hemorrhage.

論文著者: Tadashi Ozawa<sup>#</sup>, Hiroko Suzuki, Takahiro Miyata, Tomoaki Kameda, Takashi Kobari, Masayuki Tetsuka, Fumihiro Arai, Keisuke Ohtani, Takahiro Miyawaki, Mutsumi Nagai, Masaaki Hashimoto, Takeshi Fujiwara, Kazuomi Kario, Kensuke Kawai, Shigeru Fujimoto, and Ryota Tanaka\*.

#: 筆頭著者 \* : 責任著者

掲載雑誌: Hypertension Research

DOI: 10.1038/s41440-024-02087-7.

### Q1. 今回の研究を行うまでの経緯を教えてください。

脳卒中は依然として日本における疾患別死亡率の第4位の原因であり、予防対策や治療について研究が進められております。そのなかで脳出血は脳卒中全体の約20%程度を占め、脳梗塞に比べ科学的に証明された急性期治療が少なく、未だ予後不良の疾患です。実際、近年の脳梗塞死亡数は減少傾向ですが、脳出血死亡数は減少していません。脳出血の最大のリスクは高血圧ですが、急性期の現場では脳出血発症前に高血圧が治療されていない、あるいは治療されていても適切に血圧が管理されていない患者が多い事が指摘されていました。しかしながらこのような現状を詳細に調査した日本人患者の報告はこれまでありませんでした。

今回、研究チームは2019年8月から2022年6月まで栃木県内の6つの急性期医療機関に緊急入院した特発性脳出血患者を前向きに登録し発症前の血圧治療状況について調査を行いました。

### Q2. 今回の研究の成果を教えてください。

全体で365例を登録し解析を行いました。登録された患者の高血圧の既往は74%でしたが、発症前に高血圧の治療を受けていなかった未治療高血圧は全患者の54.2%を占めました。発症前未治療高血圧の割合は年齢が若い程高く、50歳未満では79%が未治療高血圧でしたが、80歳以上の症例でも31%が未治療高血圧でした。男性患者は女性患者に比べ、発症前に自身の血圧が高かった事を認識している割合(男性78.3%、女性49.3%)が高いのに対し、女性では脳出血を発症して高血圧を指摘されるまで自身の血圧が高いことを知らない割合(男性14.0%、女性31.9%)が高く、これらの傾向は若年ほど顕著でした。未治療高血圧群では、若年例の喫煙率が高く、健

診の受診率も低い傾向が認められました。

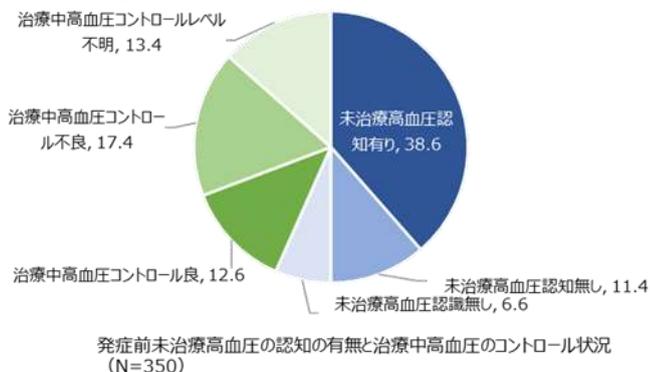
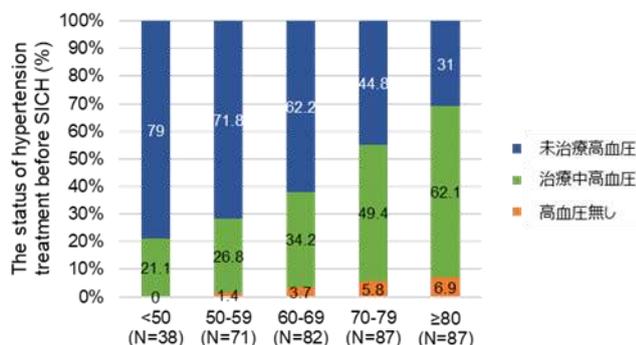
一方、高血圧治療を受けていた患者（全体の 41.6%）の血圧コントロール状況に関して調査したところ、診察室血圧が収縮期 140mmHg 未満を達成出来ていた患者の割合は 28.9%に過ぎず、40.1%はコントロール不良でした。コントロール不良の割合は若年ほど高く、また血圧管理目標値が収縮期血圧 130mmHg 未満であった患者の目標達成率は、どの年齢層でも 20%以下という結果でした。これらから、脳出血患者の血圧治療状況について、特に若年層では未治療高血圧が多く、高齢層では未治療高血圧は減少するものの、全年齢層において治療を受けていてもコントロール不良の患者が非常に多いことが分かりました。

登録された患者の死亡退院は、高血圧がない、あるいは 60 歳未満で治療中高血圧の患者では認めませんでした。一方で、未治療高血圧の患者では治療中高血圧の患者と比べ死亡退院の割合が 70 歳未満で高いことが分かりました。

### Q3. 今後はどのような展開が期待されますか？

今回の調査結果から、日本人脳出血患者における発症前未治療高血圧、コントロール不良高血圧のリアルワールドの現状が明らかになりました。年齢や性別によって、血圧治療に関わる背景が異なる事が示され、今後の予防対策にも重要な知見が得られました。特発性脳出血では、血圧の厳格治療による 1 次予防の重要性が改めて示された結果で、本研究成果が今後の戦略的脳卒中予防対策に繋がる事が期待されます。

### 日本人特発性脳内出血の発症前未治療高血圧とコントロール不良高血圧



【発行】

自治医科大学地域医療オープン・ラボ